

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-267874

(43)Date of publication of application : 28.11.1991

(51)Int.CI.

H04N 1/32

(21)Application number : 02-066201

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 16.03.1990

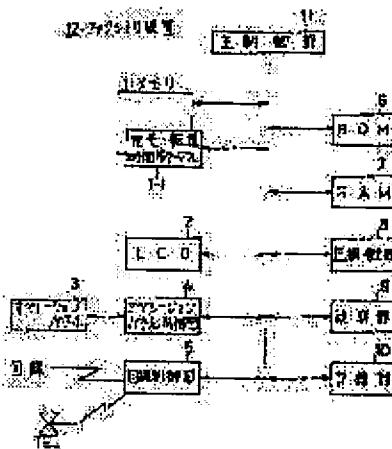
(72)Inventor : INOUE YASUHIRO  
NAKATO TOSHIHIKO  
SHIBATA KAZUHARU

## (54) TRANSFER CONTROL SYSTEM FOR FACSIMILE EQUIPMENT

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To easily transfer an original while the transfer time is limited within a designated transfer time by adopting the constitution such that a transfer time zone is registered in advance corresponding to a destination and an original is transferred within the transfer time zone only corresponding to a transmission request.

**CONSTITUTION:** A facsimile equipment 12 is provided with a destination transfer time zone table 1-1 registering a destination and a transfer time zone corresponding to each other. The destination transfer time zone table 1-1 is referenced upon a transfer request to transfer an original within the transfer time zone registered in advance, and the transfer request is stored at the outside of the transfer time zone and the original is transferred when the transfer time zone is reached. Thus, the original is transferred within the designated transfer time zone.



⑩日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公

⑫公開特許公報(A)

平3-2678

⑬Int.Cl.<sup>3</sup>

H 04 N 1/32

識別記号

序内整理番号

Z 2109-5C

⑭公開 平成3年(1991)

審査請求 未請求 請求項の数 1 (

⑮発明の名称 ファクシミリ装置の転送制御方式

⑯特 願 平2-66201

⑰出 願 平2(1990)3月16日

⑱発 明 者 井 上 康 弘 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通  
内

⑲発 明 者 中 塔 利 彦 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通  
内

⑳発 明 者 柴 田 一 治 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通  
内

㉑出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

㉒代 理 人 弁理士 篠田 守弘

明細書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置の転送制御方式

2. 特許請求の範囲

ファクシミリ装置によって原稿を指定した転送時間帯に転送する転送制御方式において、

宛先と転送時間帯とを対応づけて予め登録する宛先・転送時間帯テーブル(1-1)を設け、

転送要求に対応してこの宛先・転送時間帯テーブル(1-1)を参照して予め登録されている転送時

ファクシミリ装置によって原稿を指定した転送時間帯に転送する転送制御方式に関する、

宛先と転送時間帯とを対応づけて登録しておける転送要求に対応してこの転送時間帯のみで転送を行い、指定時間の範囲内に限定して原稿を転送することを目的とし、

宛先と転送時間帯とを対応づけて予め登録する宛先・転送時間帯テーブルを経て、転送要求に対応してこの宛先・転送時間帯テーブルを参照して予め登録されている転送時間帯のときに原稿を送り、一方、転送時間帯でないときに当該転送要求を記憶しておき転送時間帯が到来したときに

従来、ファクシミリ装置による原稿の転送は、手動で転送指示あるいは回線を介して転送要求して一義的に受け付け、そのまま転送するようにしていた。このため、ある時間帯に限定して転送し得ないという問題があった。

本発明は、宛先と転送時間帯とを対応づけて登録しておき、転送要求に対応してこの転送時間帯のみで転送を行い、指定時間の範囲内に限定して原稿を転送することを目的としている。

#### (課題を解決する手段)

第1図を参照して課題を解決する手段を説明する。

第1図において、ファクシミリ装置1-2は、原稿を送受信するものである。

宛先・転送時間帯テーブル1-1は、宛先と転送時間帯とを対応づけて予め登録するテーブルである。

#### (作用)

転送要求などの情報を記憶するメモリである。

宛先・転送時間帯テーブル1-1は、宛先と転送時間帯とを対応づけて予め登録するテーブルであって、例えば第2図に示すようなテーブルである。

LCD2は、液晶パネルであって、時間（例えば重時間、通信時間など）、送信中の宛先、電話番号などを表示するものである。

オペレーションパネル3は、オペレータが各種操作を行うためのパネルである。

オペレーションパネル4は、オペレーションパネル3からの入力を取り込むなどの制御を

本発明は、第1図に示すように、転送要求に応してこの宛先・転送時間帯テーブル1-1より検して予め登録されている転送時間帯のときの稿を転送し、一方、転送時間帯でないと各に転送要求を記憶しておき転送時間帯が到来したときに原稿を転送するようにしている。

従って、宛先と転送時間帯とを対応づけておき、転送要求に対応してこの転送時間帯のみで転送を行うことにより、指定時間の範囲内に限定して原稿を転送することが可能となる。

#### (実施例)

次に、第1図から第4図を用いて本発明の実施例の構成および動作を順次詳細に説明する。

第1図において、ファクシミリ装置1-2は、送要求に対応して宛先・転送時間帯テーブル1-1に予め登録されている転送時間帯内に原稿を送り先に送信したり、送られてきた原稿を受信したりするものである。

メモリ1は、宛先・転送時間帯テーブル1-

する読み書き可能なメモリである。

圧縮・復元部8は、原稿から読み取った画像データを圧縮したり、受信した圧縮された画像データを元の画像に復元したりするものである。

読み取り部9は、原稿を読み取り、画像データに電気能するものである。

記録部10は、受信して復元した画像データ紙に印字などして記録するものである。

主制御部11は、CPU（中央処理装置）なであって、各種制御を行うものである。

ファクシミリ装置1-2は、1ながら1-1から成され、原稿を送受信するものである。

## 特開平3-267874 (8)

間隔テーブル 1-1 を参照して 0 : 00 ~ 10 : 00 の転送時間帯のときのみに原稿を転送し、それ以外のときは当該転送時間帯が到来するまで待って転送する。同様に、宛先の FAX (B) に対しては、13 : 00 ~ 15 : 00 の転送時間帯のときのみに原稿を転送する。

次に、第4図ワードチャートを用いて第1図、第2図構成における動作を詳細に説明する。

第4図において、①は、着呼する。これは、第1図で回線を介してファクミシリ装置 1-2 に着呼することを示す。

②は、DTMF信号が発生されたか否かを判別する。これは、DTMF信号 (ブッシュホン式電話の番号などを押下したときに発生するピーーボーピーという信号) が発生されたか否かを回線制御部 3 で判別する。YESの場合は、⑨を行う。NOの場合には、⑩で待機する。

③は、転送要求コマンドか否かを判別する。これは、DTMF信号を用いて転送要求コマンドが発生されたか否かを回線制御部 3 で判別する。Y

ES の場合には、④を行う。NOの場合には、⑤を行う。

④は、転送時間帯が否かを ROM 5 内のプログラムをもとに主制御部 1-1 が判別する。これは、⑥ YES、⑦ YES で転送要求コマンドが受信されたので、現時間が第2回宛先・転送時間帯テーブル 1-1 を参照して当該転送要求コマンドで指定された宛先の転送時間帯に含まれるか否かを、ROM 5 内のプログラムをもとに主制御部 1-1 が判別する。YES の場合には、転送時間帯内である、メモリ 1 あるいは RAM 7 に蓄積などされている原稿の画像データを指定された宛先に転送する。一方、NOの場合には、転送時間帯内ではないので、⑧、⑨、⑩を行なう。

⑤は、メモリ 1 に記憶する。これは、⑨NOの現時間が転送時間帯内でないと判明したので、⑩の旨および宛先をメモリ 1 に記憶する。

⑥は、転送時間帯が否かを判別する。これは、現時間が、⑨でメモリ 1 に記憶した宛先の転送時間帯内になったか否かを ROM 5 内のプログラム

をもとに主制御部 1-1 が判別する。YES の場合には、⑪で蓄積されている原稿の画像データを指定された宛先に転送する。NOの場合には、⑩を繰り返し行い、待機する。

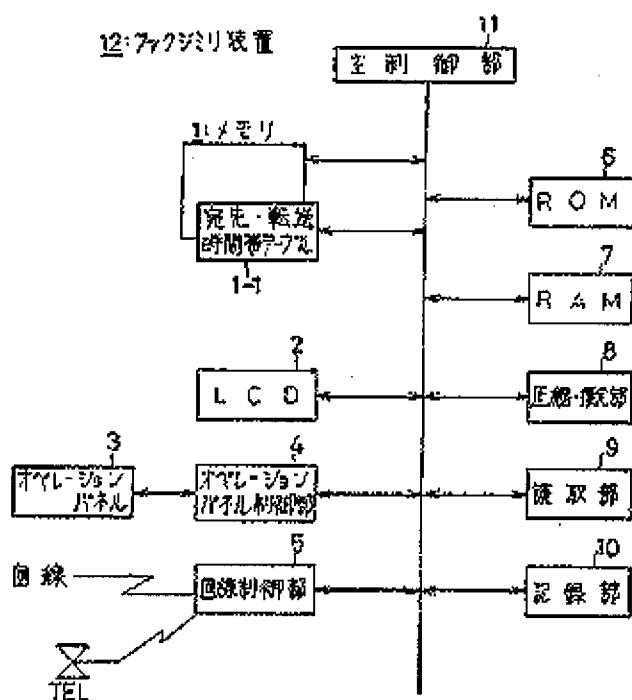
また、⑩は、オペレータがオペレーションパネル 3 から転送要求を行う。この転送要求に対応して、⑩以降を行う。

### (発明の効果)

以上説明したように、本発明によれば、宛先に対応づけて転送時間帯を予め登録しておき、転送要求に対応してこの転送時間帯のみで転送を行う

特許出願人 富士通株式会社  
代理人弁理士 瞿田 守弘

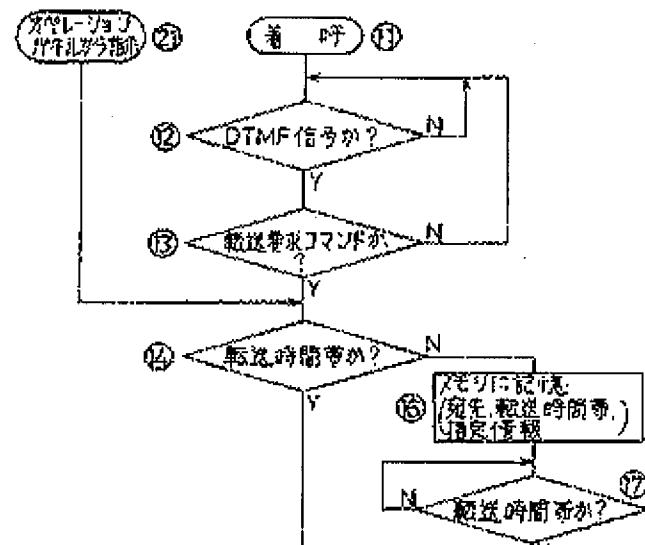
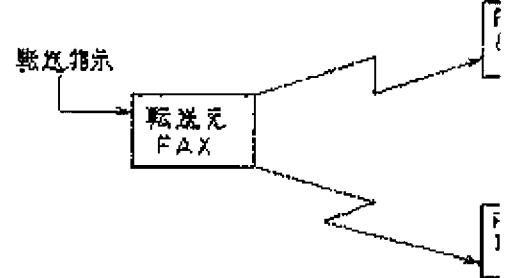
図中、1-1 は宛先・転送時間帯テーブル、1-2 はオペレーションパネル、3 は回線制御部、3-1 は圧縮・復元部、1-1 は主制御部、1-2 はファクミシリ装置を表す。



NO.	転送時間帯	宛
1.	8:00~10:00	000-XXX-△△
2.	13:00~15:00	000-△△△-××
:	:	:
:	:	:
:	:	:

本発明に係る宛先・転送時間

第2回



待開平3-2678

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【施行日】平成19年(1998)10月23日

【公廟音號】特開平3-2 6 7 8 7 4

【公開日】平成3年(1991)11月28日

【年通号数】公開特許公報3-2679

【出處番號】特鹽平2-66201

[國際特許分類第6版]

HON 1/32

[E] [I]

HOAN 1/32 Z

三統指正

卷之二

第六章

西漢名將樊噲列傳第3301期

### 2. 適正率による

郵便との関係  
住 所 東京都目黒区下目黒之丁目3番8号  
名 称 梶下坂送配会社  
代表者 梶野謙

◎ 管理人 T208

住 所 東京都多摩市路地1-24-1  
新都心センタービル5階  
駒田四階(改築部分)

### 6. 認証の内容

(1) 明治の名鉄「ファクシミリ装置の標準規範方式」を「ファクシミリ装置」に改称した。

(8) 附加書の経営指針の整理の欄を会社の通じに改正され、改本

(3) 明細書の第2頁第16行目～同第18行目の「本契約～である。」を以下の如きに替換するもの。

置に関する。」

(4) 初回の第3回第12行目の「東北」を以下の通りに修正致します。

「上記目的を達成するため、本会員は同添付と該面情報の郵送先である先端者する第1の記憶手段と、他端者未と較差時間とを対応させて予め記憶した第2の記憶手段と、前記第1の記憶手段内の発先が創設第2の記憶手段内の送信端末に一致する場合、第2の記憶手段が前記端末発送時に對応する郵送時間開閉に達したことをもれなくして初回第1の記憶手段より四時報を読み出して対応する第2の記憶手段が該面情報を読み取れるものである。これまたに該面情報が第一回

2. 対象請求の範囲

自転車と脚踏自転車の輸送先である宛先を記憶する部分の記憶手段と、該先地  
名と郵便番号とを組み合せて手帳記憶した第2の記憶手段と、前記第1の記憶  
手段内の宛先が前記第2の記憶手段内の輸送先端末に一致する場合、既存時刻が  
而記憶手段内に対応する輸送時間帯に到達したことを利用して前記第2の記憶  
手段より別機能を組み出してかかる宛先へ連絡する輸送方法手段とを具備する  
ファクシミリ装置。